

2024 年度 駒沢女子大学

「学修到達度の確認」実施報告書

2 年終了時確認報告書

教育指針に関する検討委員会

2024年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
16名	16名	100%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	1	6.25%	10	62.5%	5	31.25%	0	0%	2.75
	人間性	2	12.5%	11	68.75%	2	12.5%	1	6.25%	2.875
DP2	コミュニケーション力	2	12.5%	2	12.5%	11	68.75%	1	6.25%	2.3125
	社会性	0	0%	9	56.25%	4	25%	3	18.75%	2.375
DP3	専門力	3	18.75%	7	43.75%	6	37.5%	0	0%	2.8125
	判断力	0	0%	6	37.5%	8	50%	2	12.5%	2.25
DP4	技術力	0	0%	7	43.75%	8	50%	1	6.25%	2.375
	実践力	2	12.5%	4	25%	8	50%	2	12.5%	2.375

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

参考：全体平均 2.52 高評価：人間性 (2.875) 専門力 (2.8125) 低評価：判断力 (2.25) コミュニケーション力 (2.3125) <2023年度：全体平均 2.46>

(1) 教養力の平均が2.75、人間性の平均が2.875と比較的高い数値となっている。教養教育科目及びCPに定める教育方法の「主体性を育むためにアクティブラーニングを取り入れた授業」の成果が現れたものとする。

(2) 専門力の平均が2.8125と比較的高い数値となっている。CPに定める教育方法の「2年進級時に、各専攻に分かれ、専門教育を深めていきます」に基づく2年時履修専門教育科目の成果が現れたものとする。

(3) 「2023年度2年終了時『学習到達度の確認』の報告書」同様、判断力の平均が2.25(2023年度2.20)と低い数値となっている。DP達成に向けて「諸問題に対する的確な判断力」の育成をするものとなっているか、CPの検証が引き続き必要である。

(4) 直近3年間のコミュニケーション力の推移は2.2(2022年度)→2.53(2023年度)→2.3125(2024年度)と微増微減となっている。現行のカリキュラムにおける指導の限界が現れたものとする。

4. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
学修指針	長所・特色
<p>教養力・人間性</p>	<p>レベル3・4を合計すると教養力 68.75%、人間性 81.25%と自己評価が高い領域（DP1）である。前述の通り、教養教育科目及びアクティブラーニングを取り入れた科目の成果と考える。達成感を得るという点において2年時開講「日本の文化と歴史Ⅰ・Ⅱ」の「日本文化テキスト」講読→文献調査→レジュメ作成→個人発表→レポート作成→成果レポート集刊行という大学生らしい学び（調査・考察）の流れ及び成果物の影響が大きいと考える。</p>
<p>専門力</p>	<p>レベル3・4を合計すると62.5%と自己評価が高い（DP3の片割れである判断力は平均値2.25と低く問題視される）。2年終了時点で学生が考える日本文化に対する深い専門力は、主に2年時開講の新たな知見を得ること、知識を修得することを目的とする講義科目履修の成果であると考え。学生が考える専門力について【4年終了時の学修到達度の確認】との比較が必要であろう。</p>

5. 今後の課題（問題点）

<p>教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。</p>	
学修指針	課題・問題点
<p>コミュニケーション力・判断力・実践力</p>	<p>レベル1・2を合計するとコミュニケーション力75.0%、判断力62.5%、実践力62.5%と比較的低い数値となっている。上記4高い数値であった「専門力」で示した通り、学生にとって新たな知見・知識を修得した自覚はある一方で、原因、結果いずれの場面において、コミュニケーション力・判断力・実践力と隔たりがあるとの自覚も有する。専門力の認識が学生にとって浅薄であることが問題視される。自己評価記述に現れているように現代日本社会の仕組み理解、レポート作成技術も課題である。</p>
<p>実施及び運用方法について</p>	<p>自己評価記述全般に現れているように、学生自身に到達度を認識させることが、今後の課題への気づきにつながっている。到達度に関して客観的な判断基準があいまいであることから、教育研究推進センターにおいて第三者機関によるテストの導入を検討中と見た。しかし、上記の専門力の認識のように学修に関して多様かつ多層な認識があることから、到達度に関する学習者主体の主観的評価に基づく本報告書を学生及び教員間でまずは共有することが重要であろう。</p>

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既の実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
コミュニケーション力・判断力・実践力	昨年度の判断力・技術力低評価の課題に対する「他者の考えに対する自らの気づきを深める機会」増大との前教務委員から改善策を基本的に引き継ぐ。 2年授業時におけるグループディスカッションの実施、文献の批判的読みの演習実施、他者と意見をすり合わせ判断し協働する日本文化紹介ボランティアや日本文化専攻での学園祭参加など、三つの力を連携させて涵養する改善策を学科主任と共に考え実施したい。
実施及び運用方法について	2年時はクラス担任、3年時はゼミ担当者によって学生のサポートが行われることから、本報告書をそれら学生に最も近い教員と共有し、面接や学修への励ましの声掛けを通して、学生が課題を有すると自覚するコミュニケーション力・判断力・実践力の涵養に役立たせたい。学生生活上の不安などもコンスタントに聞くことでドロップアウト防止にも貢献すると考える。

2024年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
6名	6名	100%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	0	0%	0	0%	3	50%	3	50%	1.5
	人間性	1	33.3%	1	16.7%	2	33.3%	1	16.7%	2.7
DP2	コミュニケーション力	0	0%	3	50%	3	50%	0	0%	2.5
	社会性	1	16.7%	0	0%	4	66.7%	1	16.7%	2.2
DP3	専門力	0	0%	0	0%	3	50%	3	50%	1.5
	判断力	0	0%	2	33.3%	3	50%	1	16.7%	2.2
DP4	技術力	0	0%	0	0%	5	83.3%	1	16.7%	1.8
	実践力	0	0%	1	16.7%	3	50%	2	33.3%	1.8

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

全体として母体数が少ないので、どこまで全体像を映し出しているかは判断できない部分があるという状況の中でまとめると以下ようになる。

(1) 教養力：世界の言語(英語)・社会・文化等に関する基本的な知識については2年間では身につけていないと評価している学生が多い。残りの2年間でどの程度まで身につけることができるかが課題である。

(2) 人間性：この時期では2.0が目標値であると考え、多様な価値観を受け入れられる学生が多い。

(3) コミュニケーション力：社会人にふさわしい教養・語学力・表現力を身につけていると評価する学生が多い。

(4) 社会性：社会の一員として主体的に活動する意欲と責任感をどれくらい持っているかと評価する学生が比較的多い。

(5) 専門力：世界の言語(英語)・社会・文化等に関する専門的な知識が不足していると考えている学生が多い。

残りの2年間でどの程度まで身につけることができるかが課題である。

- (6) 判断力：様々な問題について分析し、判断することができる学生が比較的多い。
- (7) 技術力：社会・文化等に関する専門的な知識を応用できる段階に達していないと判断する学生が多い。
- (8) 実践力：学んだ専門的な知識を社会に還元することはまだまだできていないと感じている学生が多い。

4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
人間性	「多様な価値観をどれくらい受け入れられますか？」という問いに対して高いレベルを示している。多様性が叫ばれる時代にあって、そのことを授業等で学ぶ機会もあり、適切に対応できる力が身につけているものと思われる。
コミュニケーション力	社会人にふさわしい教養・語学力・表現力を身につけていると評価する学生が多い。

5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
教養力	「世界の言語(英語)・社会・文化等に関する基本的な知識はどれくらいありますか？」という問いに対するレベルが若干低いように思われる。

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
専門力	専門知識という意味では、英語力や資格の有無も関係するものと思われる。英語コミュニケーション専攻である以上英語力を身につけることは必須である。自由記述によれば確実に力を伸ばしていると感じている学生はいる。今後は TOEIC や英検など、学生に対して自ら目標を設定し、それを実現していくよう指導することが肝要と思われる。

2024年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
50名	37名	76%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	2	5%	16	43%	13	35%	6	16%	2.4
	人間性	2	5%	15	41%	17	46%	3	8%	2.4
DP2	コミュニケーション力	4	11%	15	41%	14	38%	4	11%	2.5
	社会性	1	3%	16	43%	16	43%	4	11%	2.4
DP3	専門力	2	5%	12	32%	15	41%	8	22%	2.2
	判断力	1	3%	18	49%	13	35%	5	14%	2.4
DP4	技術力	1	3%	9	24%	17	46%	10	27%	2.0
	実践力	4	11%	9	24%	18	49%	6	16%	2.3

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

学修指針に示される8つの能力のうち、「身についた(Lv.2)」以上を選択した割合が9割を超えたのは「人間性」、8割を超えたのは「教養力」「コミュニケーション力」「社会性」「判断力」「実践力」、「専門力」「技術力」は7割であった。「専門力」「技術力」を除く6項目で8割以上の学生が肯定的な評価(Lv.2以上)を示しており、2年次終了時点において本専攻が目指すDPの到達状況としては全体として良好と評価できる。したがって、DP達成に対し、CP・APが一定の寄与を果たしていると考えられる。一方、「かなり身についた(Lv.3)」以上を選択した学生の割合に着目すると、「コミュニケーション力」「判断力」は約5割強、「教養力」は約5割、「人間性」「社会性」は約4割半ば、「専門力」は約4割弱、「実践力」は約3割半ば、「技術力」は3割弱となった。「専門力」と「技術力」の相対的な低評価は、専門科目の履修やゼミ所属が今後本格化するというカリキュラム上の時期的要因が影響していると考えられる。また、「教養力」については履修機会が比較的多いにもかかわらず、高水準での自己評価がやや伸び悩んでおり、今後の教育設計における検討課題といえる。

4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
人間性	本専攻では学生が多様な考えに触れることを意図し、専門の異なる教員が一堂に会して意見を述べる機会が必修科目にて多く設定されている（例 人間関係の基礎）。このような設計は、学生が多角的視点に触れ、自らの価値観形成に向き合う契機となっており、「人間性」に関してはLv.2以上の肯定的自己評価が全体の約92%と最も高い水準に達した。「自立した人間として成長した」といった自由記述からも、その効果が示唆される。
コミュニケーション力	本専攻では対話的な授業や発表・グループワークを必修科目内でも積極的に取り入れてきた。その成果として本指針においてLv.2以上の評価は全体の約89%にのぼり、自己評価の中でも上位に位置づけられている。また、自由記述では高校からの人間関係構築の方法に変化がみられた、社交性の向上を主旨とする記載が複数みられ、定性的な面からも能力伸長が裏づけられる。

5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
教養力・専門力・技術力	3指針の高水準達成には、知識を自ら深め、応用する姿勢が求められる。自由記述では、対人関係や自立性の成長が語られる一方で、「分野が広いせい」か「専門性はあまりない」「何が身についたかわからない」といった声も見られ、学びが応用・実践にまで十分に展開していない可能性がある。また、2年次までに履修する教養的な学修が、3年次以降の専門性の基盤となるという設計意図が、学生に十分に共有されていないようにも見受けられた。

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
教養力・専門力・技術力	知識を自ら深め生活に活かす応用力を育成するため、授業内で教員が実生活での活用例を紹介する、学生自身に応用方法を考えさせる活動を取り入れる必要がある。また、2年次までの学修が3年次以降の専門性の基盤であることを学生に認識させるため、初年次や2年次のゼミ、履修ガイダンス等で、段階的に学修する意義を明示する工夫が必要である。

2024年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
65名	49名	75.3%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	1	2.0%	15	30.6%	28	57.1%	5	10.2%	2.2
	人間性	2	4.1%	23	46.9%	17	34.7%	7	14.3%	2.4
DP2	コミュニケーション力	1	2.0%	21	42.9%	19	38.8%	8	16.3%	2.3
	社会性	1	2.0%	20	40.8%	22	44.9%	6	12.2%	2.3
DP3	専門力	0	0.0%	13	26.5%	26	53.1%	10	20.4%	2.1
	判断力	1	2.0%	13	26.5%	27	55.1%	8	16.3%	2.1
DP4	技術力	2	4.1%	12	24.5%	29	59.2%	6	12.2%	2.2
	実践力	0	0.0%	8	16.3%	24	49.0%	17	34.7%	1.8

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

- ・ DP1・2・3は、平均値が2年次終了時に目指される基準（レベル2）を超えており、学生が概ね適切な学修プロセスに沿って学んでいることがうかがえる。
- ・ DP4のうち、「実践力」の平均値は2年次終了時に目指される基準（レベル2）を下回っている。ただし、最も多く報告されたレベルは2であることと「実践力」は専門ゼミをはじめとして3年次以降のカリキュラムにおいて特に意識されるものであることを踏まえると、不適切な学修プロセスを表すものとは言えない。
- ・ 自己評価コメント（代表例は次頁）からは、学生たちの学びの姿勢がきわめて積極的・意欲的であることがうかがえ、自己評価得点がレベル2に集中している点は向上心の表れであるとも解釈できる。
- ・ 以上の分析からは、CP・APともにDP達成に適切であること、3・4年次は特に心理学の知を活用する実践力（DP4）の育成が目指されること、そして学生の意欲的な姿勢を尊重する学びの提供が重要であることを指摘することができる。

4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
学修指針	長所・特色
DP1の「人間性」及び DP2の「コミュニケーション力」	当該学修指針は、平均値が高く、レベル3の比率も最も多い。本学の学びはコミュニケーション力を鍛えるとともに、自己実現を目指すことに特に寄与しているといえる。講義だけでなくグループでの取り組みが多いことがその理由の一つと言えるかもしれない。

5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。	
学修指針	課題・問題点
実施及び運用方法について	昨年度の同アンケートの回答率9割と比べ、今回は7割5分と大幅に減少した。

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
学修指針	改善策
実施及び運用方法について	回答率の減少には学類内の事前案内の不備によるところが大きいと考えられる。次年度以降は余裕を持ったスケジュールで学類内に周知していく。

2024年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
36名（3年次編入生を除く）	36名	100%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	3	8.3%	24	66.7%	9	25%	0	0%	2.8
	人間性	10	27.8%	26	72.2%	0	0%	0	0%	3.3
DP2	コミュニケーション力	7	19.4%	23	63.9%	6	16.7%	0	0%	3.0
	社会性	7	19.4%	21	58.3%	7	19.4%	1	2.9%	2.9
DP3	専門力	5	13.9%	21	58.3%	9	25%	1	2.8%	2.8
	判断力	5	13.9%	21	58.3%	9	25%	1	2.8%	2.8
DP4	技術力	3	8.3%	17	47.2%	14	38.9%	2	5.6%	2.6
	実践力	3	8.3%	23	63.9%	10	27.8%	0	0%	2.8

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を簡潔に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

(1)平均値3.3と最も数値が高いのは人間性（多様な価値観を受け入れ、ホスピタリティ精神を創造的に実現することができる）であった。これは2位のコミュニケーション力と同様、将来観光業界での活躍を目指す学生にとって、実践的な学びが行われていること、またその成果が、インターンシップなどの対外的場面を通して自分自身で実感できているということであると考え。

(2)逆に最も平均値が低かったのが技術力（研究を理論的で説得力のあるレポートにまとめ、プレゼンテーション・質疑応答することができる）であった。判断力や専門力といった、学術的な学びの自己評価が低い傾向も見て取れる。インプットしたものを相手に伝わるようアウトプットするスキルは、一朝一夕には身につかない。CPとしては、観光文化学類・学部の4つのAPを入学後も確実に伸ばしていくこと、卒業までの2年間で意識的にアウトプットの機会を提供することが大切であると考え。

4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
学修指針	長所・特色
コミュニケーション力・社会性	本学類は実践的な学びに主眼を置いている。インターンシップや国内外旅行研修、また産学連携の取り組みなどの機会を多く設定していることが、学外の様々な年代の方々との交流を通じて学生自身の評価につながっていると考える。

5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。	
学修指針	課題・問題点
技術力	大学生として学術的に学ぶという前提があり、インプットしたその学びを相手に伝わるようにアウトプットするスキルには、書く、伝える、という経験を繰り返すことが重要と考える。そのような機会の重要性を3、4年次に学生自身に自覚させていく必要がある。

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
学修指針	改善策
技術力	4年次にゼミ発表会（合同発表会）を実施している。学生生活の集大成として目標となるイベントであり、本調査と卒業時の調査との比較検証をするうえで大いに有効である。準備段階から発表会の意義などをより深く意識して取り組ませることで、より効果が上がると考える。

2024年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
60名	48名	80%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	6	12.5%	23	47.9%	16	33.3%	3	6.3%	2.67
	人間性	10	20.8%	27	56.3%	11	22.9%	0	0.0%	2.98
DP2	コミュニケーション力	3	6.3%	20	41.7%	16	33.3%	9	18.8%	2.35
	社会性	3	6.3%	27	56.3%	15	31.3%	3	6.3%	2.63
DP3	専門力	3	6.3%	19	39.6%	22	45.8%	4	8.3%	2.44
	判断力	3	6.3%	10	20.8%	31	64.6%	4	8.3%	2.25
DP4	技術力	4	8.3%	17	35.4%	22	45.8%	5	10.4%	2.42
	実践力	8	16.7%	12	25.0%	23	47.9%	5	10.4%	2.48

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

- (1) 8項目の中で最も高い平均値は「人間性」であり、昨年度同時期も同じ順位かつ0.28ポイント上昇した。
- (2) 8項目の中で最も低い平均値は「判断力」であり、昨年度同時期最下位の「技術力」は上昇している。
- (3) 昨年度同時期と比較すると「コミュニケーション力」「判断力」「実践力」以外の平均値は上昇している。
- (4) 「判断力」は昨年度同時期の平均値から0.1ポイント減少した。また「判断力」でレベル2を回答した学生は6.5割程度おり、8つの学修指針の項目中で最も高い。
- (5) 「人間性」はレベル3・4の回答数が約7.5割以上(77.1%)を占めており、8項目中最も高い。
- (6) 「判断力」はレベル1・2の回答数が約7割以上(72.9%)を占めており、8項目中最も低い。
- (7) レベル1の回答が最も多いのは昨年度同時期と同じ「コミュニケーション力」で、約19%の学生が回答。
- (8) レベル1の回答が2番目に多いのは「技術力」と「実践力」で、約10%の学生が回答した。
- (9) DP1・2及びDP3・4の平均値はそれぞれ2.66及び2.40であるため、2年修了時におけるCP、APの内容は概ね適切であると考えられる。

4. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
学修指針	長所・特色
人間性	<p>設計製図等を始めとする実技科目の課題制作プロセスや作品発表・講評会を通じて「くらしの環境のあり方について問題点を指摘し、より良い住空間を実現するために努力することができる」と実感する学生が増加した結果、レベル3・4の回答が7.5割以上の回答を得られた要因と考えられる。</p>

5. 今後の課題（問題点）

<p>教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。</p>	
学修指針	課題・問題点
コミュニケーション力	<p>DP1・2の中では依然として例年と同様に最も平均値が低い。</p>
実施及び運用方法について	<p>比較的成績の良い学生ほど控えめな評価を行い、その逆の現象もみられる傾向が依然として残る。より客観性の高い自己評価を得るための対策が必要。</p>

6. 課題・問題点に対する改善策

<p>「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。</p>	
学修指針	改善策
コミュニケーション力	<p>1・2年次の科目において、教員や学生同士と対面でのグループワーク等を通じた意思疎通の機会をより一層増やす必要がある。昨年度の1年生から取り組み始めた看護学科との合同授業によるグループワークなど試みなどを継続することで効果を検証する。</p>

2024年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

実施人数	対象者数	回答率
59名	54名	91.5%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	3	5.5%	23	42.6%	24	44.4%	4	7.4%	2.46
	人間性	7	13.0%	25	46.3%	22	40.7%	0	0.0%	2.72
DP2	コミュニケーション力	5	9.3%	24	44.4%	23	42.6%	2	3.7%	2.59
	社会性	14	25.9%	23	42.6%	17	31.5%	0	0.0%	2.94
DP3	専門力	3	5.6%	23	42.6%	26	48.1%	2	3.7%	2.50
	判断力	5	9.3%	16	29.6%	27	50.0%	6	11.1%	2.37
DP4	技術力	4	7.4%	15	27.8%	30	55.6%	5	9.3%	2.41
	実践力	6	11.1%	19	35.2%	25	46.3%	4	7.4%	2.50

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。

また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

(1) 学修指針の各項目とも、平均は2.37点以上であった。

(2) 栄養士・管理栄養士は対人関係をうまく保つことが求められ、そのことを意味する学修指針の「人間性」や「社会性」などの項目が特に高かったのは、本学科の教育内容がうまく機能しているものと考えられる。

(3) 学生自己評価コメントからも、教育目標のプレゼンテーション能力や計画性をもって自らの意思を実現につなげていく実践力が向上したとのがうかがえた。

4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
人間性	栄養士・管理栄養士としての社会的責務を果たすことができるようにカリキュラムを作成しているが、特に、心理学を必修としていることが、「人間性」の向上に効果を示していると考えられた。
社会性	基礎ゼミや各実験実習授業におけるグループワークにて、メンバーを入れ替えながら実施していることが、「社会性」の向上に役立っていると考えられた。

5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
実施方法について	実施日が3年時になって授業がだいぶ進んでからであったので、これからの学習について学生に考えさせる意味でも4月当初に実施するべきであった。

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
実施方法について	学科として実施日を検討していきたい。

2024年度 2年終了時「学修到達度の確認」の報告書

1. 実施人数／対象者数

対象者数	実施人数	回答率
73名	71名	97.3%

2. 集計結果

教育目標	学修指針	レベル4		レベル3		レベル2		レベル1		平均値
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	
DP1	教養力	5	11.3%	30	42.3%	28	39.4%	8	11.3%	2.45
	人間性	24	33.8%	28	39.4%	17	23.9%	2	2.8%	3.04
DP2	コミュニケーション力	23	32.4%	35	49.3%	11	15.5%	2	2.8%	3.11
	社会性	13	18.3%	30	42.3%	26	36.6%	2	2.8%	2.76
DP3	専門力	5	7%	31	43.7%	27	38%	8	11.3%	2.46
	判断力	2	2.8%	30	42.3%	26	36.6%	13	18.3%	2.29
DP4	技術力	2	2.8%	34	47.9%	31	43.7%	4	5.6%	2.49
	実践力	4	5.6%	37	52.1%	25	35.2%	5	7%	2.56

3. 検証結果

〔現状説明〕 10行程度で集計結果についての分析を完結に説明してください。

4年終了時の場合は、2年終了時と比較した学習指針などを具体的に説明してください。
また、DP達成に向けCP、APの適切性についても記載ください。

平均値が3.0以上となったのは「人間性」「コミュニケーション力」の2項目であり、続いて「社会性」が2.76であった。新カリキュラムが開始され2期目の入学生であり、1,2年次配置の『基礎看護学実習』、新カリキュラムで取り入れた1年次での『地域ふれあい実習』の成果がDP2「コミュニケーション力」「社会性」の結果につながっているのではないかと推察する。1・2年次は教養教育科目および専門基礎科目が大半を占めることから「専門力」「判断力」「技術力」「実践力」は3年次以降の専門科目、臨床実習によって到達レベルの上昇が期待できると考える。看護学科のCPとして“2年次までに配当された全ての必修科目を修得しなければ、3年前期の配当科目を履修できない”としており、これに該当した学生は前年度9名に対して今年度は17名であった。「教養力」「社会性」「専門力」「判断力」「技術力」「実践力」は昨年度と比べ低かった。

4. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

学修指針	長所・特色
なし	

5. 今後の課題（問題点）

教育目的を実現する上での課題、学修指針に関する問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。なお、「学修到達度の確認」の実施及び運用方法についてのご意見は、「学修指針欄」に「実施及び運用方法について」と記載の上、記述してください。

学修指針	課題・問題点
実施及び運用方法について	3年次の学修に進むための条件としている「2年次までに配当された全ての必修科目の修得」を達成できなかった学生が前年度にも増して多く発生している。それらの学生の傾向としては、欠席が多い、学習意欲の低下がみられることが多いため、生活面での指導も重要となってくる。

6. 課題・問題点に対する改善策

「5. 今後の課題（問題点）」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

学修指針	改善策
実施及び運用について	CPについて、入学時オリエンテーションおよび2年次オリエンテーションで説明しているが、入学時基礎学力テストの結果、個々の学習状況を踏まえて学修支援センターの活用、学習方法の指導を丁寧に行っていく。

2024 年度 駒沢女子大学

「学修到達度の確認」実施報告書

2 年終了時確認報告書

2025 年 7 月 24 日

教育指針に関する検討委員会